

# 生徒にとって身近な具体例を用いた高等学校公民科の授業方略 —生徒が保有する素朴概念の活用を目指して—

23A1017 和田 達旺

## 要旨

高等学校公民科の抽象的な学習内容に対する理解は、素朴概念を活性化することによって促すことが可能である。本論文では、このような考えのもと、高等学校公民科の授業において、授業者が、生徒が見聞きしたことのあったものや事象を提示するだけでなく、生徒が自らの経験から身近な具体例を引き出し、活用しながら学習内容を理解する授業を構想し、実践の分析を行った。その結果、生徒が自分なりに見聞きしたことのあったものや事象の例を引き出し活用しながら授業に臨む姿や、自分が想定できなかった例を、他の生徒の発言をもとに引き出している様子が見られた。また、見聞きしたことのあったものや事象であっても、自らが直接的に経験したことの無い出来事は、抽象的な概念を理解する際に活用しにくい可能性があることが、生徒の様子から分かった。

【キーワード】 身近な具体例, 素朴概念, 公民科

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説公民編(2018:165)では、「具体的な体験を伴う学習について、これを重視している。これは、具体的な体験を伴う自らの直接的な活動を通して社会的事象を捉え、認識を深めていくことを期待しているからである」としている。過去に体験していることは、身近に感じることを踏まえると、高等学校公民科においては、生徒の身近な具体例を活用して社会的認識を育むことが求められていると分かる。

また柿沼(1998:4)は、経済概念の意味を追究する学習において「注意すべき点の第1は、取り上げられる説明ないし仮説が、いかなる現実と根差しているかを問うことが必要である。なぜなら現実離れした絵空事のからくりによって経済事象を説明することは、実感をもった認識を育てることにつながらないと思われるからである」としている。この主張を参考にすると、高等学校公民科において、社会的事象に関する学習内容に対する理解を促すための方法として、生徒が持つ身近な具体例と学習内容を関連付けることが考えられる。

しかし末谷(2017:78)は「現行の『経済』に関する学習は、『受験のため』や『暗記』といった意識が強く、このような状態では、学習内容と実際の社会経済との間の乖離がさらに広がっていくことが懸念される」としている。現在の高等学校公民科の授業は、生徒が持つ身近な具体例を活用せず、身近ではない抽象的な内容を学習することに終始している可能性がある。

そこで本研究では、高等学校公民科において、生徒が持つ身近な具体例を活用して、抽象的な学習内容への理解を促す授業の在り方を検討し、実践した授業について分析を行う。第2章では、生徒が持つ身近な具体例を用いて行われた授業に関する先行研究から、高等学校公民科において授業者が取り入れることができる工夫について検討する。第3章では、

授業実践の内容確認と分析を行い、最後に第4章で総括と今後の課題の確認を行う。

## (2) 身近な具体例とは

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編(2017:93)では、身近な地域について「生徒の居住地や学校の所在地域を中心に、生徒自身による調べる活動が可能な、生徒にとって身近に感じることができる範囲」であるとしている。つまり、物理的な距離が生活空間に近いものということである。対して小見(2023:1)は、中学校社会において身近とは何かについて「①時間的に『身近』なもの(例:現代の海外情報) ②空間的に『身近』なもの(例:近隣の古跡・博物館等) ③時間的・空間的に『身近』なもの(例:市区町村行政)」の3つに分けている。また小見は、地域ではなく情報や建物、行政に関しても身近なものであると定義している。生徒にとって手の届く情報や、訪れることができる建物、そして普段から自分に関わりのある出来事が身近であると述べている。手をのびたことのない情報や、関わったことのない出来事は、身近であると捉えられにくい。これらのことを踏まえると、身近な具体例とは物理的な距離だけではなく、心理的な距離が近いものも身近であるという捉え方が可能であり、「生徒が日常生活で見聞きしたことのあるものや事象」であると考えられる。

ところで、過去の経験や他者との関わりをもとに身の回りのものごとの規則性を捉える理屈は素朴概念と呼ばれる(三宅・齋藤, 2018)。一人一人の生徒は、それぞれ異なる経験や他者との関わりを経て授業に臨んでいるため、保持する素朴概念の内容は異なる。

中学校社会科で素朴概念に着目して実践を行った例として石橋・藤村(2020)が挙げられる。石橋・藤村は教科で扱う学習内容について「日常生活に関連づけることで学習者の既有知識を活性化し、学習者に因果関係を追究させることを通じて知識を関連づけ、今後の変化の予測を促すことで、その知識が活用されることが、理解の深化において重要であると推測される」としている。このことから、生徒の素朴概念を活性化させることは、学習内容の理解を促す上で効果的であると分かる。上述したように、見聞きしたことのあるものや事象の例は、生徒一人一人で異なっている。そのため、抽象的な学習内容に対する理解を促すためには、生徒一人一人が自分なりに見聞きしたことのある物や事象を活用し、素朴概念を自ら活性化できるよう工夫する必要がある。

しかし、論文検索サイト CiNii で検索したところ、高等学校公民科の経済分野において、素朴概念に着目して授業を行った実践研究は少ない。例えば相田(2023)は、生徒が持つ素朴理論と経済学理論を比較させ、素朴理論の変容を促す授業実践を行っている。しかし、一人一人の生徒がそれぞれ、どのように見聞きしたことのあるものや事象を活用し、自らが保持する素朴概念を活性化するのか、という点については注目されていない。そこで次章では先行研究をもとに、高等学校公民科において、生徒一人一人の素朴概念が異なる内容であることを踏まえ、生徒が見聞きしたことのあるものや事象を活用して、学習内容に対する理解を促す授業の在り方について検討する。

## 2. 生徒の素朴概念を活性化する授業の在り方とは

本章では、高等学校公民科の経済の学習において、生徒の素朴概念を活性化する授業を行う際、授業者はどのような工夫ができるのかについて検討する。

田島(2008)は、概念理解を促す教師の「再声化介入」という働きに着目し、学習者の理解の促進に効果があることを論じている。具体的には、小学校理科の学習内容と、小学生が支持するであろう日常経験知との間の矛盾を、解消するよう求める面接を大学生に対して実施している。この実践の注目すべき点は、矛盾を解消できていない大学生に対して、教師が日常経験知を提示することで、内容理解を深められるとしているところである。生徒が学習内容と日常経験知が関連付くものであることを自覚するために、教師が役割を果たすことが効果的であると分かる。

一方で、田島(2008:325)が、教師が生徒の理解する過程に介入することについて「たとえ実験参加者間の議論によって生み出された説明内容が不十分なものであっても…実験参加者の議論により深く踏み込む介入法はできるだけ使用を控え、実験参加者自身の対話による解釈活動を尊重する必要があることが示唆される」としていることに注意しなければならない。生徒が学習内容について、授業者が提示したものや事象でしか理解できない状況に陥ることは避ける必要がある。授業者が提示するものや事象は、生徒が見聞きしたことのあるものや事象に、合致するものであるとは限らない。授業者が生徒の、学習内容に対する解釈を固定化させないことが重要となる。

以上のことを踏まえると、授業者は、一人一人の生徒が見聞きしたことのあるものや事象を、いくつか予想して例示する準備をしておくといよい。またそれだけではなく、授業の中では生徒自身が、見聞きしたことのあるものや事象の例を、自ら挙げる場面を設けることが重要である。そうすることによって、生徒は抽象的な学習内容について、自らの素朴概念を確実に活性化させながら理解することが可能となる。さらに周囲の意見を参考にし、自分が思いつかなかったものや事象の例を見つけ出す場面を設けることも考えられる。

### 3. 授業実践

#### (1) 授業内容の検討

前章までの検討を踏まえ授業を構想する。単元は「市場経済の機能と限界」を取り扱う。この単元では「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という問いと「市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たしているのか」という問いを探究する。つまり、この2つの問いが主たる学習内容である。そこで以下においては、2つの問いを学習する際に、生徒が、見聞きしたことのあるものや事象の例を、どのように挙げるができるのか、について検討する。

1 つ目の「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という問いについては、価格が変化する「財やサービス」を、生徒が自らの経験から挙げるのが大切になる。まずは授業を展開する中で、授業者の側から例示として、時と場合によって価格が変化する財やサービスをいくつか提示し、その後に生徒が自ら、時と場合によって価格が変化する財やサービスの例を考える。そうすることによって、授業者が提示した例を参考にしながら、過去の経験の中から類似の特徴を持つ財やサービスを思い出すことが可能となる。

2 つ目の「市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たしているのか」という問いについては、「市場の失敗」の例を生徒が自らの経験を参考にして挙げるのが大切になる。市場の失敗とは、独占・寡占、公共財の不足、外部不経済のことを指すが、それぞれの具体例に当てはまるものの中には、生徒が経験していないものが含まれている<sup>1</sup>。例えば、小

学校や中学校の社会科においては、公害(外部不経済)の例として、海や河川、また大気の汚染によって引き起こされた四大公害病について学習する。この際、四大公害病を例に用いて学習した場合、生徒は現在の政府の役割ではなく、四大公害病が起こった当時の政府が、どのように公害を解決したのか検討している、と捉えてしまう可能性がある。見聞きしたことはあるものの、自らが実際に経験したことのないものや事象を活用しても、学習内容への理解が深まらない。このような状況に陥らないよう、授業者は、生徒が自分の日常生活で見ることができる市場の失敗の具体例を、自らの経験をもとに想定できる機会を設けなければならない。

独占・寡占については、教科用図書で寡占化が進んでいる市場が紹介されている。本研究において実践を行った学校で採用している教科用図書では、ビール、乗用車などが例示されていた。これらの例に加えて、公正取引委員会のホームページで紹介されている、有名アイスクリームの再販売価格が固定された例を用いることが考えられる。

公共財の不足については、生徒が見聞きしたことのものを想定しやすい。実践校で採用している教科用図書では道路、公園、灯台、消防といった公共財が非排除性を持つため、市場に任せておくと供給不足になることが紹介されている。道路や公園を使ったことのない高校生はいないであろうため、これを用いて学習を行うことができる。

最後に外部不経済については、先述したように、生徒が小学校や中学校で学習した内容に注目することがないように、生徒が自分の日常生活の中で見られる公害の例を自ら発見する機会を設けなくてはならない。

## (2) 実践の概要

前節までの検討を踏まえ、ワークシート資料①を用いて、A 高校の第 3 学年を対象に、10 月 15 日と 10 月 16 日の 2 日間に渡り、2 時間構成の授業を行った<sup>2</sup>。

まずは「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という問いについて学習を行った。導入場面では、A 高校の近くにある飲食店の商品の価格と、東京都内にある飲食店の商品の価格が異なることを提示し、なぜ価格差が生じるのか、という問いを扱った。

また、イチゴの均衡価格が、春と冬では旬や行事などの理由で変化することについて検討した。導入に用いた飲食店の商品は、場所によって財の価格が変化する財であったが、イチゴは季節によって財の価格が変化する財である。財やサービスの価格は、様々な要因によって(時と場合によって)変化することを生徒に意識付けた<sup>3</sup>。

その後は「時と場合によって価格が変化するものを一つ挙げてみましょう」という授業者の問いかけにより、生徒が、飲食店の商品やイチゴを参考にして、自分が見聞きしたことのある「時と場合によって価格が変化する財やサービス」を挙げる場面を設けた。この際、人気アーティストのライブチケットが年々高騰している事例も授業者から提示した。

以上の学習が終了した後「市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たしているのか」という問いについて学習を行った。その中で「外部不経済を政府がどのように解決するのか」という問いの学習を行う際「公害の例を一つ挙げてください」という問いを用いて、自分が思う公害の例を挙げる場面を設けた。その時、授業者が生徒に対して「自分の日常生活の中で公害があるかどうか思い出してみましょう」や「大気汚染が日常の中で起きているイメージはありますか。ある場合はその詳細を記述してみましょう」という言

葉かけを行った。その後は、生徒が公害の例として挙げた酸性雨に焦点を当て、大気汚染を政府がどのように解決すべきなのか検討を行い、課税により外部不経済に対処する方法があることについて学習した。

### (3) 実践の分析

実践授業の学習内容は「財やサービスの価格はどうに決まるのか」と「市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たすのか」というものであった。この2つの問いを学習する中で、生徒が見聞きしたことがあるものや事象を挙げながら学習を行うことで、抽象的な学習内容に対する理解が促される。以下ではこの視点を踏まえて、生徒が授業の中で、見聞きしたことがあるものや事象の例を自ら発見することができていたのかどうか(①, ②), また自ら発見できていた場合、生徒は学習内容をどのように理解したのか(③), について分析を行う。

#### ①「財やサービスの価格はどうに決まるのか」という問いを学習する中で身近な具体例を挙げられた場面

表 1 「財やサービスの価格はどうに決まるのか」という問いを学習する中で生徒が挙げた身近な具体例

生徒	生徒の記述
a	魚
b	水, 冬・夏服, 旬の食べ物
c	電車・バスの運賃, さかな(さんま)
d	ガソリン
e	うなぎ, 大根, みかん, ぶどう
f	白菜, 大根, みかん, サンマ
g	アイス, りんご, みかん
h	サンマ

まずは「財やサービスの価格はどうに決まるのか」という問いを学習する中で、生徒が見聞きしたものや事象を挙げることができているのか検討する。左の表1は「時と場合によって価格が変化するものを一つ挙げてみましょう」という問いに対する生徒の記述である。この問いを検討する前まで

に、授業者から出された「時と場合によって価格が変化する財やサービス」の例は、A 高校の近くにある飲食店の商品とイチゴ、人気アーティストのライブチケットである。飲食店の商品は場所によって価格が変化する財の例、イチゴは季節によって価格が変化する財の例、そしてライブチケットは、価格変化が起こるサービスの例として提示した。表1の記述を概観すると、生徒は季節によって価格が変化する財の例を多く挙げていることが分かる。魚類や果物類、また野菜類や衣服は、イチゴと同様に季節によって価格が変化する。

一方「ガソリン」に関しては、別の要因で価格が変化する。ガソリンを輸入に頼る日本においては、産油国の石油輸出状況や為替レート、また近年では補助金の影響も相まって、小刻みで複雑な価格変化が起こる。家族で自動車に乗る機会のある高校生であれば、ガソリンは時と場合によって価格が変化する身近な財の好例である。

「電車・バスの運賃」といった公共交通機関の運賃に関しては、都会に住む高校生と地方に住む高校生で捉え方が異なる。例えば東京都のバスや広島市内を走る路面電車は、距離に関わらず運賃が均一である。一方で、地方を走るバスは運行距離によって価格が変動する。地方にある A 高校の生徒にとっては、公共交通機関の運賃は、需要者の状況によって価格が変化するのが普通である。そのため、地方に住む A 高校の生徒たちに限っては、公共交通機関の運賃は、場所によって価格が変化するサービスの好例であると考えられる。

以上のように生徒は、授業の中で登場した財やサービスと同じ理由で価格が変動するサービスの具体例だけでなく、授業者が提示した財とは異なる要因で変化する財やサービスについても、自ら想定することができている。さらに「電車・バスの運賃」のように、授業者が想定しなかった生徒固有の例も挙げるができている。

## ②「市場の失敗に対して政府はどのような役割を果たすのか」という問いについて学習する中で身近な具体例を挙げられた場面

続いて「市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たすのか」という問いを学習する中で、生徒が見聞きしたことがあるものや事象の例を挙げるができているのか検討する。下記の表2は「公害の例を一つ挙げてください」という問いに対する生徒の記述である。記述を概観すると、四大公害病を挙げている生徒が複数人存在している。小学校や中学校で学んだ内容がしっかりと記憶されている証拠であるが、先述した通り四大公害病は、生徒の日常生活の中で身近に起きている公害病ではない。一方で、「振動(トラック、バイク)」や「騒音←近所で工事、ゴミ」、「PM2.5」など、生徒がこれまでの日常経験を思い出しながら想定したと思われる記述も存在している。このように生徒は、中学校までの既習事項と、これまで見聞きしたことがあるものや事象を記述していることが分かる。

表2 市場の失敗に対して政府はどのような役割を果たすのか」という問いについて  
学習する中で生徒が挙げた身近な具体例

生徒	生徒の記述
a	大気汚染, イタイイタイ病, 水質汚濁, 水また病
b	水また病(熊新), イタイイタイ病, 四日市ぜんそく, 足尾銅山, 水質汚濁, 騒音
c	大気汚染, そうおん, 水質汚濁, 振動(トラック, バイク), 悪しゅう
d	そう音, 汚水, 大気汚染, PM2.5
e	渋滞, 排ガス, 騒音←近所で工事, ゴミ,
f	大気汚染, 土壌汚染, 海洋汚染, 酸性雨, 地球温暖化, 水質汚濁, PM2.5, 排気ガス, 騒音
g	水俣病, イタイイタイ病, 四日市ぜんそく, 新潟水俣病 →大気汚染, 水質汚濁, 騒音, 悪臭, 振動, 地盤沈下, (その他2個)
h	工場からの有毒なガス, 有毒な物質の河川放出, 騒音/黄砂, 工事の音

ところで生徒aは、四大公害病のみ挙げている。この場合、授業者はどのように生徒自身から、見聞きしたことがあるものや事象を引き出せばよいか。これについて表3に「公害の例を一つ挙げてください」という問いに取り組んだ直後の、生徒と授業者のやり取りを示した。

表3 授業者と生徒のやり取り

発話者	授業者と生徒のやり取り
授業者	(典型七公害の図を示しながら)皆さんの周りで、こういうの起きてるイメージありますか？ちょっと日常生活思い出してみて、何か大気汚染来てるなってイメージありますか？イメージがあったらちょっと書いてみてください。なかなかこう日本綺麗なんでイメージわかない人も多いと思うんですけど、わいたらちょっと書いてみてください。どうですかgさん思い浮かびましたか。
g	いやあ。
授業者	eさんどうですか。
e	近所で工事してたら、騒音が。
授業者	なるほどそれはありますね。fさんはどうですか。
f	私も近所で工事してたらペンキの匂いが。

これを見ると、生徒 e が近所の工事の例を挙げると、生徒 f も近所で工事が行われていた事例を思い出し、身近な公害を挙げることができていると分かる。生徒 f は、記述だけを見ると典型七公害と PM2.5、また騒音に言及しているが、近所の工事が原因で起こった悪臭については記述していない。このことから生徒は、互いに意見を参考にすることによって、それまでは思い出せなかった例を挙げることが可能となったと考えられる。

最後に、生徒は学習内容をどのように理解していたのかについて分析する。ここでは、特に 2 つの問いに対して、異なる反応を見せた生徒 g を中心に述べる。

まず「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という問いに対して、生徒は下記の表 4 のようにまとめの記述を行った。これを見ると 8 人の生徒は、財やサービスの価格が需要と供給の両面から決定されることを記述している。特に生徒 h は、クリスマスといった具体的な例を持ち出して、価格変化が起こる要因について記述している。このことから「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という問いを用いて行われた学習については、全ての生徒が目標を達成していると考えられる。

表 4 まとめ記述(財やサービスの価格はどのように決まるか)

生徒	生徒の記述
a	需要と供給、場所
b	その商品を生産する時にかかるコストや量によって価格変動が起こり、消費者のイベント等の需要による変化の違いによってもかわる。
c	売り手と買い手がそれぞれかかえる理由や状況によって需要と供給が変化することで決まる
d	需要側と供給側、そうほうが納得のいく値段になったとき
e	消費者が高くても買いたい時と、そうでないとき、生産者が高く売りたい時、に変動する。
f	生産費や生産量、需要量が変化することで需要曲線や供給曲線がシフトするため均衡価格が変動する。
g	需要である消費者と供給である生産者の理想との差があまり生じないように決められている。
h	供給量が需要量に足りているかいないかで決まる。また、クリスマスなどの特殊な場合、需要が増えて供給はそのまま価格が上がったりして土地や賃金の差などによって人件費や土地などの上昇で供給だけが減り、価格が上がる場合がある。

また生徒 g の様子から、学習内容への理解が深まっていると考えられる場面が存在する。上述したように授業者は「時と場合によって価格が変化するものを一つ挙げてみましょう」という問いを用いた場面で、人気アーティストのライブチケットが年々高騰していることを例として提示した。その際、生徒 g が共感するように何度も頷く様子が見られた。「時と場合によって価格が変化するものを一つ挙げてみましょう」という問いに取り組むのに際して、生徒 g が見聞きしたことのある事象を提示できたと言える。上述したように、生徒が見聞きしたことのあるものや事象を用いることは、学習内容の理解を促すために必要な条件である。「財やサービスの価格はどのように決まるのか」という学習内容について、生徒 g は素朴概念を活性化させながら理解していると考えられる。

続いて「市場の失敗に市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たすのか」という問いに対して、生徒は下記の表 5 のようにまとめを記述した。これを見ると生徒 c 以外は、市場メカニズムが働かないときに政府が役割を果たすことについて記述している。生徒 c は政府という単語は使用していないものの、市場メカニズムが働かなくなった際に「人が手助けする」という記述が見られることから、需要者と供給者以外の第三者が、何かしら

手立てを講じる必要があることを理解していると考えられる。また生徒 f は「政府の介入や企業の自主規制によって生産量が調整される」という記述が見られ、政府の介入によって市場にどのような影響が及ぶのかまで理解していると考えられる。これらのことから「市場の失敗に市場の失敗に対して政府がどのような役割を果たすのか」という問いを用いて行った学習については、全ての生徒が目標を達成していると考えられる。

表 5 まとめの記述(市場の失敗に対して政府はどのような役割を果たしているか)

生徒	生徒の記述
a	価格の変動によって政府が介入し、課税などを消費者と企業の都合に作られ、不都合があった時は、人の手助けによって
b	物の需要と供給を決定できるのは、公共財や公害対策に限り、政府その他は、様々な要因によって変動がおこなわれ最終的には均衡点になる。
c	世の中の需要量、供給量の変化は、その時々状況や消費者と企業のつごうによってつくられ、必要に応じて人が均衡点にもどるように手助けすることもある。
d	需要側、供給側、どちらも損しないことが重要であり、損をする場合には、政府が介入し、課税や法律で改善させる必要がある。
e	市場価格は市場の周りの影響を受けて、高くなったり低くなったりすることが分かった。・市場の失敗が起こった場合は政府の介入が必要だと分かった。
f	世の中の状況に合わせて政府の介入や企業の自主規制などで生産量や需要量が調整される。
g	世の中のものの値段は需要と供給によって決められているが、市場の失敗もおこりうるため、政府や企業の手助けも必要である。
h	供給量は政府や地方自治体などの課税から抑えられる場合があり、公共財は莫大な費用がかかるため、企業が作ることは少なく、自治体が出すので不足しがちになる。

また授業者は「公害を一つ挙げてください」という問いを用いた際、日常生活の中で大気汚染が発生しているイメージがあるかどうか、ある場合はその詳細について記述するよう生徒に問いかけた。その際、生徒 a は A 高校と同じ市にある工場の名前を挙げていた。このことから生徒 a は、市場の失敗に対する具体的なイメージをもった上で、まとめの記述に向かっていったと考えられる。一方で、授業者が生徒 g に対して大気汚染が日常的に起こっているか問いかけたところ「いやあ」と首をかしげる様子が見られた。このことから生徒 g は、大気汚染が身近に起こっている感覚がないため、すなわち活用できる見聞きしたもののあるものや事象がないため、素朴概念を活性化させることが出来ず、学習内容に対する理解が促されていない可能性がある。

2 つの問いに対する生徒 g の反応を比較すると、授業者が、生徒が見聞きしたもののあるものや事象を予想して提示するという、同じ手立てを講じていても、理解の深まりに差がうまれると言える。上述の通り、生徒 g は人気アーティストのチケットが高騰している話題に触れた際には、大きく頷くそぶりを見せた一方、大気汚染に関する話題に触れた際には、首をかしげるそぶりを見せた。いずれの例も生徒が経験したり見聞きしたりしている情報であることは変わらない。ただし、その例が生徒 g にとって活用できるかどうかという点では差があったものと思われる。生徒 g にとって人気アーティストのライブチケットは、自らが意図的に直接関わった経験があり、より切実な話題である。一方、大気汚染はこれまでの経験の中で見聞きしていたとしても、自らが直接経験したことではないため、自分なりに活用できる知識であるとは言えない。社会的認識を育むためには、自らが持つ身近な具体例と抽象的な学習内容を関連付けるとよい、と考えるならば、大気汚染を例に行った「政府は市場の失敗に対してどのような役割を果たしているのか」という学習内容



は、生徒 g にとって理解しにくい可能性がある。

以上の分析を通して、3つのことを考察として述べる。

1 つ目は、生徒は授業者が提示した例とは異なる特徴の例を挙げることができる、ということである。生徒は授業者では想定できない、自分にとって身近な例を用いることによって、抽象的な経済の学習内容を確実に理解することができる。

2 つ目は、見聞きしたことの物や事象の例は生徒同士で、互いに引き出すことが可能である、ということである。見聞きしたことの物や事象の例を想定できない生徒であっても、他の生徒の意見を聞くことによって、これまでに見聞きしたことの物や事象を思い出し、新たな例を自ら発見することができる。

3 つ目は、授業者が、生徒が見聞きしたことの物や事象を予想して提示する場合、生徒がその物や事象について意図的に、または明確に関わった経験がどれくらいあるかによって、理解の深まりが変化する可能性があるということである。つまり、見聞きしたことの物や事象であったとしても、活用できる知識ではない場合がある。生徒の思考を促し、理解を深めるためには、生徒が日常生活やこれまでの経験において積極的に、直接的に活用している知識に焦点化するという手立てが望まれる。

#### 4. 総括と今後の課題

生徒が持つ身近な具体例と、高等学校公民科で扱われる抽象的な学習内容を関連付けることによって、生徒の学習内容に対する理解を促すことが可能となる。本論文ではこのように考え、高等学校公民科の経済分野において、生徒が見聞きしたことの物や事象の例を用いた授業を実践し、生徒が自ら、見聞きしたことの物や事象の例を発見することができたのか、また学習内容をどのように理解していたのか、について検討した。

実践授業の中で、授業者が生徒の見聞きしたことの物や事象を予想して例示する工夫や、生徒同士で意見を交流する場面を設ける工夫を行ったところ、生徒が、見聞きしたことの物や事象の例を自ら挙げる場面を見取ることができた。また、見聞きしたことがあっても、自らにとってより切実な、直接的に関わったことのない物や事象については、学習内容を理解する際に活用しにくい可能性があることが分かった。

これに関して和田・河野(2025)は、学習者が日常と学習内容を関係のあるものとみなし、学習した内容を日常生活で生かせるようになるためには、生徒の素朴概念を引き出し、認知的葛藤が伴う概念変化を生じさせることを想定して、授業を展開する方法について言及している。今後は、和田・河野(2025)の知見を参照し、高等学校公民科において、生徒が持つ素朴概念を活用し、認知的葛藤が伴う概念変化を生じさせる授業についても構想し、その効果について分析を行いたい。

また田島(2008)が指摘した、授業者は、生徒が理解する過程に踏み込みすぎないように注意しなくてはならない点について詳細に検討ができていない。今後実践を重ねながら、生徒の理解を固定化しない授業者の介入方法の在り方について検討する必要がある。

#### 注

(1) 一般社団法人教科書協会が挙げている東京書籍株式会社、実教出版株式会社、株式会社清水書院、数研出版株式会社、株式会社第一学習社のうち、教科書によっては情報の非

対称性を、消費者問題の節で別枠として用いている場合があるので、本論文では情報の非対称性について、市場の失敗の授業の中では取り扱わない。

(2) 本研究における生徒の記述等の取扱いに関しては、授業実践に参加した生徒とその保護者から、記述の使用について同意を得ている。分析にあたっては、匿名化の処理を行い個人が特定できないようにした。

(3) 財やサービスの価格が変動する要因は多数存在するが、本論文では特殊な事情がない限り主たる要因であろうもののみに注目した。例えば飲食店の商品であれば、都市と地方で生産コストが増減すること(供給要因)、人口の差で需要が増減すること(需要要因)を、場所によって価格が変化する主たる要因とした。

## 参考文献

- 相田直樹(2023)「公民科『政治・経済』における学習者の素朴理論を経済学理論と比較させる授業実践」教育実践学会『教育実践学研究』第26号, pp21-28
- 石橋優美・藤村宣之(2020)「中学生における概念的理解の促進過程:日常的事象に関連づけたはたらきかけが科学的概念の理解に及ぼす効果」日本家政学児童学部会『児童学研究』第44巻, pp51-61
- 柿沼利昭(1998)「経済学習における意味追究の再考:生徒の素朴な問いに答えてきたか」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第1998巻.80号, pp1-8
- 公正取引委員会「絵で見る私たちの暮らしと独占禁止法の関わり これまでにどんな事件があったの?～私たちの身近に起こった事件ファイル～ ファイル4アイスクリーム製造販売業者による再販売価格の拘束」  
(<https://www.jftc.go.jp/ippan/part4/file04.html>)2025年2月21日最終閲覧
- 小見和也(2023)「『身近』に学ぶ中学校社会科の教材開発と実践」埼玉大学大学院教育学研究科『令和4年度課題研究報告書』  
(<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/grad/master/report/>) 2025年2月13日最終閲覧
- 末谷将汰(2017)「高校で学ぶ『経済』と『実社会・実生活』との乖離状況ならびにその要因に関する研究」広島大学大学院社会科学部研究科附属地域経済システム研究センター『地域経済研究』第28巻, pp59-81
- 田島充士(2008)「再声化介入が概念理解の達成を促進する効果:バフチン理論の視点から」一般社団法人日本教育心理学会『教育心理学研究』第56巻.3号, pp.318-329
- 三宅芳雄・斎藤萌木(2018)「経験から作る素朴概念」, 三宅芳雄・白水始編著『教育心理学特論』, 放送大学教育振興会, pp.67-86
- 文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説公民編」
- 文部科学省(2017)「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編」
- 和田達旺・河野晋也(2025)「素朴概念の変容を促す高等学校公民科の授業方略:認知的葛藤を伴う概念変化に着目して」大分大学大学院教育学研究科『大分大学教育学部紀要論文』第46巻.2号, pp.167-181

資料① 授業で使ったワークシート (1 ページ目)

**政治経済 経済活動と市場**

番

本時の目標：

Q1 東京のマックの方が高い値段なのは、なぜでしょうか？

Q2 価格が高すぎたり低すぎたりする時は、何が起きているのでしょうか？

Q3 春が旬で出荷量が増え、旬ではない 12 月にも出荷量が増える果物といえよ？

\* D(12)を書きこんでみましょう！

\* 需給曲線の基本事項を復習！

資料① 授業で使ったワークシート (2 ページ目)

Q4 あなたはケーキ屋さんです。原材料となる卵やイチゴの価格が上昇したり、人件費が高騰したりすると、作れるケーキの個数はどうなりますか。

Q5 正当に価格が変化するのは、どのような時でしょうか？

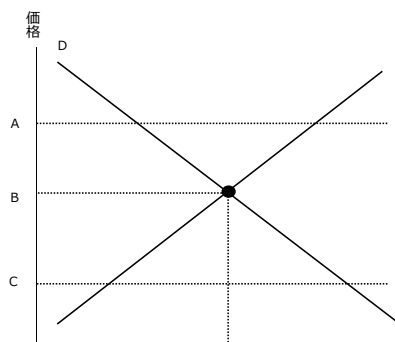
Q6 時と場合によって価格が変化する物一つ挙げてみましょう。

まとめ 世の中の物の値段はどうやって決まっているのでしょうか？

## 資料① 授業で使ったワークシート (3 ページ目)

本時の目標：

Q1 アイスクリームの事例を読み、小売店が希望する価格と、H 社が求めた価格は、A～C のどの価格が予想してみましょう。



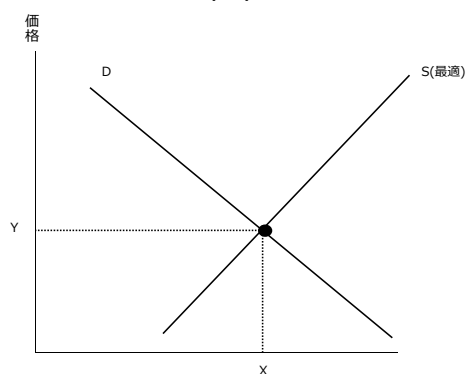
Q2 このように不当な価格で物が取引されている時、役割を果たすべき主体は何でしょうか？

○公共財

Q3 住宅街にあるような近所の公園を思い浮かべてください。その場所で遊んでいるのは誰ですか？

Q4 なぜ企業はあまり公園を作らないのでしょうか？

Q5 公園の供給が不足している状況を、S(不足)で表してみましょう。



## 資料① 授業で使ったワークシート (4 ページ目)

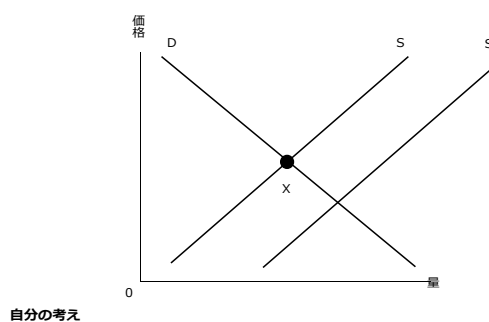
○公害

Q6 公害をできるだけ多く挙げてください。

Q7 公害によってどのような被害が生じ、実際に被害を受けるのは誰でしょうか？

Q8 公害の被害を改善するための費用は誰が負担するのでしょうか？ また、本来は誰が負担するべきなのでしょうか？

Q3 均衡点をXとします。公害が発生している状態の供給曲線をS'とすると、適切なSに戻すためにはどのような手立てを講じればよいでしょうか？



自分の考え